

お薬のしおり

渡航者医療センターについて No.105 (H22.10)

東京医科大学病院 薬剤部

当院では海外渡航者（海外勤務者、海外旅行者、留学生）の健康問題に関する診察を専門に行なう診療科として「渡航者医療センター」を2010年9月に開設しました。日本の大学病院としては最初の海外渡航者専門の診療科です。

今回は、海外渡航の際に特に気をつけなければならない感染症のうち、代表的なものの特徴を挙げてみたいと思います。これらの感染症を予防するワクチンは「渡航者医療センター」で接種可能です。

◆A型肝炎

途上国に滞在する人、特に50才以下の方が対象となります。A型肝炎ウイルスが患者の便に排出され、この便に汚染された水・果物・野菜・貝類・氷などを介して感染します。渡航先では生水、氷入りの飲み物、加熱していない食物に注意が必要です。

◆B型肝炎

B型肝炎ウイルスが病原体で、感染者の血液や体液によって感染します。B型肝炎の感染者が多い地域への旅行者は滞在期間や目的に応じてワクチン接種をお勧めします。感染率の高い地域では、体液で汚染される可能性のある医療用器具、カミソリ、歯ブラシなどが滅菌済みか使い捨てのものであることを必ず確認して下さい。そうでなければ使用しないで下さい。

◆破傷風

冒険旅行などで怪我をする可能性の高い人が対象となります。破傷風は、破傷風菌が産生する毒素によって、口唇や手足のしびれ、口が開けにくいといった神経症状を引き起こし、診断・治療が遅れると全身けいれんを引き起こし、死に至る感染症です。破傷風菌は全世界の土壌中に存在し、



主に傷口から感染します。特にアフリカ、東南アジア、中南米などの途上国では、ワクチンの不足や不適切な傷の手当などが原因で患者が多く発生しています。患者は、予防接種を受けている若年層では少なく、予防接種を受けていない人や、予防接種による免疫が消失した高齢者で多くなっています。前回の接種から10年以上経過している人は、追加接種をおすすめします。

◆狂犬病

イヌやキツネ、コウモリなどの多い地域へ行く人、動物研究者など動物と直接接触する人が対象となります。狂犬病は、欧米を含む世界の大陸に存在します。狂犬病が否定できない犬などに咬まれた時には、傷口の洗浄・消毒後、現地の医療機関ですみやかに狂犬病ワクチンを接種してください。

◆日本脳炎

流行地へ行く人（主に東南アジアでブタを飼っている地域）が対象となります。日本脳炎ウイルスは、蚊によってブタから人に伝播します。日本脳炎は、高温多湿な気候で、ブタなどを飼育し、蚊の発生しやすい水田のある地域に多く発生しています。虫よけスプレーなどを利用し、肌を露出しない服装を心がけましょう。

◆麻疹

麻疹ウイルスは、空気感染、飛沫感染、接触感染によって、ヒトからヒトへ感染し、その感染力は極めて強いです。麻疹は日本では一般的ですが、欧米などではほぼ撲滅された病気です。このため、日本人が、海外旅行中に麻疹を発症し、現地で流行を広めてしまった事例も報告されています。海外旅行を計画されている方は、予防接種歴や罹患歴を確認しましょう。どちらもなければ、出国前に麻疹ワクチン接種を受けておくことをおすすめします。

渡航者医療センターでは上記以外のワクチンも扱っています。また、高山病外来もあります。海外への旅行を思い立ったら早い時点で（できるだけ出発3ヶ月以上前から）、接種するワクチンの種類と接種日程の相談を渡航医学のエキスパートにしてみてもいかがでしょうか？

海外旅行時には、時差や気温の変化、天候の違い、さらに長時間の飛行などにより、体にも心にも大きなストレスがかかり、思いもかけない健康上のトラブルをおこすことがあります。旅立つ前に渡航先の情報はしっかり把握しておきましょう。